

北海道花き振興協議会（北海道）

協議会構成団体：北海道花き生産連合会、北海道鉢花生産組合、北海道ばら研究会、ホクレン農業協同組合連合会、北海道農業協同組合中央会、北海道芝生生産者協同組合連合会、(株)札幌花き地方卸売市場、日本花き卸売市場協会北海道支所、札幌花き園芸(株)、はまなす花き(株)、北海道植物(株)、(一社)全国花卸協会東北・北海道ブロック札幌支部、北海道生花商協同組合、北海道フラワーガーデン協会、北海道園芸商同友会、日本ハンギングバスケット協会北海道支部、北海道いけ花連盟、北海道教育庁、北海道

戦略品目

切り花：スターチス、カーネーション、ゆり、デルフィニウム、ひまわり、アルストロメリア、ばら、トルコギキョウ
鉢もの：シクラメン、ポインセチア
花壇用苗もの：ニューギニアインパチェンス、ゼラニウム、カリブラコア、バーベナ、コリウス



< 取組内容 >

1 生産供給体制の強化

- ・液肥混入機の導入による鉢物生産の省力化と生育に与える影響を調査する。
- ・ニーズが見込まれる夏～秋の花壇用苗ものの生産拡大に向け、戦略品目4品目の北海道における耐光性・耐暑性・耐湿性品種の特性や適性を把握する。

2 流通の効率化・高度化

- ・カーネーションの出荷時期の調整に向け、収穫後1週間低温保管した後の品質と日持ちについて調査する。
- ・デルフィニウムの品質向上及び出荷ロス低減に向け、鮮度保持装置を設置した冷蔵庫での保管後の日持ち性を調査する。

3 需要の拡大

- ・日常的に花きを楽しむ人を増やし、花きの消費拡大に繋げるため、花き展示、アレンジメント体験等を実施。
- ・新たな販売方法の実証として3店舗で定額制購入サービスを実施。
- ・道産花きの魅力を一般消費者に伝えるため、小学校や幼稚園、福祉施設、高齢者施設などで花育や園芸体験による花きの活用促進の取組を実施。

< 取組の成果 >

- ・液肥混入機の導入により、作業の省力化が図られた。また、液肥の濃度が均一に保たれたことで生育及び日持ちが良好となる傾向があった。(写真1)
- ・R3年は7～8月にかけて高温少雨の気象条件となったが、4品目31品種のうち3品目21品種が晩秋まで状態が良く、夏～秋の花壇用苗ものとして高評価となった。



写真1：日持ちの違い
(左：液肥混入機導入区、右：慣行区)

- ・1週間の低温保管後であっても、慣行出荷と同等以上の品質と日持ちが確認できた。
- ・鮮度保持装置を使用して保管すると、ホワイト系の品種において、慣行保管よりも外観劣化が緩やかになる傾向があった。(写真2)



写真2：出荷後5日目 出荷後8日目
左：慣行保管、右：鮮度保持装置保管

- ・道内各所で花き展示PRイベント・アレンジメント体験を実施し、延べ10万人ほどが来場・参加した。来場者へのアンケートでは花を購入したいと回答した人が多数となった。
- ・R4.3末現在、合計46人が定額制購入に登録。自身のために花を購入する人が増加する傾向が見られた。
- ・合計2,204名が花育・園芸体験に参加。参加した児童の保護者等へのアンケートでは、花育体験後、花き購入頻度が増えた家庭は19.3%であった。



札幌市民交流プラザでの展示



幼稚園でのアレンジメント体験

< 今後の取組予定 >

- ・液肥混入機による省力化・高品質化に向けた実証、EOD技術による冬期間の省エネルギー化と高品質化に向けた実証、花壇用苗もの特性等調査については、品目・品種を変えて実証を行い、同様の効果が見込めるか検証する。
- ・鮮度保持装置による日持ち性向上の実証を行う。
- ・各種展示やアレンジメント制作体験、花育等を実施し、需要拡大と道産花きの認知度向上を図る。